

令和 4 年 6 月 25 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K18234

研究課題名（和文）農村における創造的資源継承についての実践研究

研究課題名（英文）Active research on creative succession of rural resource

研究代表者

松本 文子（Matsumoto, Ayako）

大阪大学・COデザインセンター・特任助教（常勤）

研究者番号：40533550

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：大地の芸術祭開催地域である十日町市での調査より、芸術祭の開催が直接的に新規事業を生み出すのではなく、新規事業を生み出しやすい、寛容でイノベティブな環境を形成していることがわかった。

また、東条川疏水地域や、ゆがふ国際映画祭における質問紙調査からは、創造的活動を求める層が存在する一方で、農村や地方には創造的活動の機会や頻度が十分ではないことが明らかになった。人材育成事業であるとなかなか地域創生塾の調査によって、創造性が高い参加者においても、属性が異なる他者に対する寛容性を育むことは困難であることがわかった。また、塾の参加を通して、ソーシャルキャピタルが向上することが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

創造性と寛容性が関連していることが示唆された一方で、地方での創造的な機会の提供や、寛容性を育むようなプログラム作りが困難であるという課題が浮き彫りになった。日本においては、外国人や宗教、障害による差異はもとより、性別や世代を超えた協働の機会ですら十分ではなく、寛容性を育む創造的活動の提供が求められることが明らかになったことには社会的意義がある。

受動的に映画や芸術を鑑賞する、そこからさらに発展して、主体的にアイデアを実現するような創造性の高い活動を経験する、といったプログラムを提供すると同時に、個人のネットワークが拡大し、多様な属性の人とチームワークができるような活動の重要性が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：From the interviews in Tokamachi City, the area where the Echigo-Tsumari Art Triennale was held, it was found that the holding of the art festival does not directly create new businesses, but rather creates a permissive and innovative environment that facilitates the creation of new businesses.

Questionnaire surveys in the Tojogawa Sosui area and the Yugafu International Film Festival also revealed that while there is a segment of the population that seeks creative activities, there are not enough opportunities and frequency of creative activities in rural and regional areas. A survey conducted through the human resource development project, the "Toyonaka Regional Innovation School," revealed that even among highly creative participants, it is difficult to develop tolerance in teamworks with others of different attributes. The study also revealed that social capital is enhanced through participation in this school project; attachment to community, socializing in community.

研究分野：地域計画学

キーワード：創造性 寛容性 アートプロジェクト 地方創生 コミュニティ 文化芸術 農村環境 創造的活動

1. 研究開始当初の背景

平成 27 年に決定された国土形成計画においては、地域の個性を重視して地方創生を実現すること、イノベーションを起こして経済成長を支えることが謳われている。しかし、具体的な方法論は提示されないまま、地域にその方向性が委ねられている。今後、少子高齢化に伴う経済規模の縮小が想定される中で、社会資本や文化資本を活かした地方創生が重要となると予想される。

一方、農村においては、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域共同活動が実施されているが、活動を担う従来の組織は高齢者が中心であるため、次世代への継承とともに新たな価値の創造が課題となっている。

創造都市論においては、文化芸術を活用することで人や組織、地域の創造性が引き出されることが明らかになっている。この理論を援用し、閉塞する農村地域の状況を打開するため、創造性に焦点をあてた資源継承の可能性を実証したい。

2. 研究の目的

本研究では、創造的な人材を集積することにより、低迷する農村資源の維持活動にイノベーションをもたらし、参加主体の拡大と次世代への継承による新たな価値の創造を強化することを創造的資源継承と定義し、規定要因とメカニズムを明らかにするとともに、創造的活動の実践を通して、実現可能性と地方創生への有効性を検証する。

3. 研究の方法

本研究では、図 1 に示されたモデルを検証する。創造的なプロジェクトへの参加を通して、個人や地域の創造性が向上されると考え、「創造的」とは、新規性や面白さ、アート、自己表現といった概念に規定されると想定する。プロジェクトによって地域には「SC」、個人には「他者への寛容性」といった効用が創出され、それらを通して「資源への興味」や「資源維持活動への参加意欲」が強化されると仮定する。モデルの構造は創造的活動に関わるメカニズムで、構造Ⅰは資源維持活動への参加に関わるメカニズムである。それらを結びつける心理、行動面での要因を解明し、創造的プロジェクトと資源維持活動の統合を実践する。インタビューに基づく定性的分析と質問紙調査による定量的分析を組み合わせ、プロジェクトにおける「創造性」の構成概念「創造性」による「SC」「寛容性」等の効用創出メカニズム、創造性と地域資源への興味、資源維持活動への参加意欲との関係、を明らかにする。モデルをもとに 兵庫県東条川疏水での疏水維持活動において創造的な資源継承を実践し、効果を検証する。

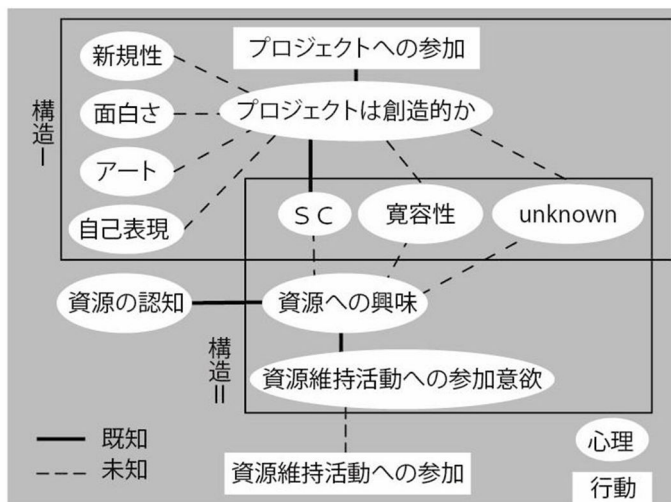


図1 プロジェクトの創造性と資源維持活動への参加モデル

4. 研究成果

(1)大地の芸術祭開催地域での創造的資源継承の実態把握

起業家やタクシー会社経営者、観光行政部門担当者にインタビューを行い、芸術祭がイノベーションの直接的要因となるのではなく、個々人が有している地域外での就業経験、既存の施設の活用、大企業やベンチャーとのネットワーク、といった複数の要因との関係によってイノベーションが起こることを確認した。

(2)東条川疏水地域での創造的活動の実践

質問紙調査やインタビュー、作品制作活動中の脳波測定、といったデータ収集に加えて、住民を対象としたアイデア収集、フォトコンテスト、動画制作のワークショップを行った。疏水にまつわる物語を収集したフォトコンテストは、鑑賞者からは創造性が高い活動であると評価された。また、疏水の重要性を認識する層、創造的活動を好む鑑賞者層が存在する一方で、疏水をテーマとした芸術活動には参加意欲は低く、「祭」のような形態で疏水に関する事業を展開する要望が多く見られた。

(3)創造的人材育成事業の効果測定

とよなか地域創生塾の参加者へのインタビュー、質問紙調査を通して、創造的人材育成事業によって他者との交流が増大し、関係者間のネットワークが時間を追って密になることが明らかになり、他者の受け入れや他者の話を聞く力が増大するとともに、地域への愛着や地域の人付き合い、地域活動への参加意欲、地域行事への参加といった、ソーシャルキャピタル(社会関係資本)を増大する効果がみられた。一方で、異性や年齢の異なる他者とのチームワークにおいては、寛容に対応することの困難が示された。現在の地域づくり事業においては、寛容性を育むような他者との協働の機会が少ないことが一因と考えられる。

(4)生体情報によるデータ収集方法の検討

質問紙調査では回収率が下がることや、回答すること自体の積極性のバイアスがかかることから、データの客観性を高めるため、生体情報による創造性調査の開発を検討した。心拍数と芸術作品の鑑賞行動との関係については、時計型の測定器を用いて、鑑賞行動中に心拍数が下がる傾向が確認されたが、サンプル数を増やして検証する必要がある。また、芸術活動の参加前後で脳波(シータ波)が増大することを想定し測定を試みたが、製作には大きな動きを伴うため、動作や発汗によるノイズが大きく、傾向を把握することが困難だった。適切な測定環境の設定とノイズの少ない機器の選定が重要であることがわかった。

(5)研究成果の一般社会への発信、対話を促進する多様な取組

オンラインでの国際学会発表やオープンアクセスの紀要への投稿に加え、「東条川疏水シンポジウム」「津和野会議」「アイランダーサミット石垣」といった講演に参加した。また、研究成果公表のためのホームページを作成し、広くディスカッションが行える環境づくりを行った。さらに、大学生が中心となって地域の方々とともに、デザインシンキングやCOデザインのコンセプトに基づき、フォトコンテストと動画制作ワークショップを実施し、メディアにも取り上げられた。また、「ポートランド地図帖(原著:Portlandness)」の翻訳を通して、デザインを重視した地図が一般に広く普及するツールとなることを紹介した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松本文子, バレットF.D.ブレンダン, 上須道徳, 中西 忍, 平野 しのぶ	4. 巻 10
2. 論文標題 地方創生のcodesign : 創造的活動の先進事例を評価する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Co*Design	6. 最初と最後の頁 73-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/83307	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Ayako Matsumoto
2. 発表標題 Action research of design thinking and codesign on informing the value of waterchannel
3. 学会等名 Association of Rural Planning International Seminar (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本文子
2. 発表標題 疏水維持活動に関する住民の意識構造-東条川疏水ネットワーク博物館事業を事例として-
3. 学会等名 大阪大学豊中地区研究交流会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 デービッド・バニス、ハンター・ショービー、埴淵 知哉、花岡 和聖、松本 文子、高松 礼奈	4. 発行年 2018年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 196
3. 書名 ポートランド地図帖	

〔産業財産権〕

〔その他〕

- 1) アイランダーサミットいしがき「人間性への回帰 - ヒューマン・グレートリセット」パネリスト(2021, 沖縄県石垣市)
- 2) 東条川疏水フォトコンテスト「写真が語る私と水の物語」(「ソーシャル・イノベーション」受講生らによる企画「東条川疏水フォトコンテスト」についての記事)(2021, 神戸新聞)
- 3) 六稜トークリレー「令和時代のcommunication, collaboration, cocreation」(2021, 大阪府北野高校)
- 4) 「とよなか地域創生塾」最終プレゼンテーションコメンテーター(2019-2021, 大阪府豊中市)
- 5) 「日本酒×鴨川清水=「美」の特産品 加東産にこだわったせっけん開発」(ソーシャルイノベーション講義における地域起業家との連携)(2020, 神戸新聞)
- 6) 「とよなか地域創生塾アンケート調査報告書」(2019-2020, とよなか地域創生塾関係者に配布)
- 7) 「津和野会議」モデレーター(2019, 島根県津和野町)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関